

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 27 年 9 月 福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

【研究課題名】 飲食物中の放射性物質による被ばくと基準値に関する受け止め方の調査

【研究期間】 平成 27 年 9 月～平成 32 年 8 月

【研究の意義・目的】

2011 年原発事故以降、放射線被ばくに関するリスクコミュニケーションにおいて、さまざまな情報提示の方法が試行錯誤的にとられてきた。リスクに関する比較の提示方法によって、人々の受容性が異なることが知られており、提示したリスク情報の仕方によって、リスクの大きさの捉え方、リスクへの受容、情報提示への信頼性が異なると考えられる。また、性別・年齢・居住地・理系文系などの属性や放射線リスクへの考え方によって、その傾向も異なることが予想される。しかしながら、それらを定量的に示した研究例は限られている。そこで、本研究では、飲食物中の放射性物質由来の被ばく量と基準に対する受容性を取り上げ、リスク情報の提示の仕方によって、飲食物中の放射性物質に関するリスクの大きさの捉え方、その受容性、情報提示への信頼性がどのように異なるかを定量的に明らかにする。さらに、個人属性や放射線リスクへの考え方による差異を検討する。これにより、どのような情報提示がどのような人にとって分かりやすく、リスクの大きさを捉えることができるかを明らかにすることができ、目的に応じた効果的な信頼性の高いリスクコミュニケーションに関する有用な基礎的知見を得ることができる。

【研究の方法】

本研究では、アンケートの結果を用いて解析を行う。アンケートは、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座が東京大学生産技術研究所と東京大学大学院工学系研究科との連携のもと、実施する。具体的には、アンケートは、入札によってオンライン調査会社を決定し、委託する。対象者は、オンライン調査会社への登録モニターである。事前に、オンライン調査会社に調査の実施可否と見積りを確認の上、人数を決定している。

調査で得られるデータは、性別・年齢・職業・配偶者/子供/孫の有無・学歴・理系/文系・喫煙習慣・信頼している情報源といった個人属性、飲食物中放射性物質のリスク認知（リスクについての全般的な考え方）、提示された情報のリスクの大きさが理解しやすいか、大きいと思うか、正確と思うか、基準値などと比較した上での受容性、交通事故と比較したリスクの大きさ、自由回答などである。福島県のみ、個人属性として、居住地（浜通り/中通り/会津）および原発事故による避難の有無の質問を追加している。リスクの提示情報として、A：被ばく量、B：被ばく量+発がんリスク、C：被ばく量+損失余命の 3 タイプ、比較対象情報として 1～10 を用意した（表 1 参照）。福島県については A1、A2、A6、A10 の 4 グループ、東京都については A1～6、A8～10、B1、B7、B9、B10、C1、C10 の 15 グループ、大阪府については A1～6、A8～10 の 9 グループとした。これらの提示情報は、原発事故直後から、さまざまな研究者、研究機関などが提示した方法に基づいている。

提示情報、居住地域や個人属性、放射線リスク認知の違いにより、リスクの大きさが理解しやすいか、大きいと思うか、正確と思うか、基準値などと比較した上での受容性、交通事故と比較したリスクの大

きさに差異がみられるかどうかを明らかにする。居住地や個人属性、放射線リスク認知による違いを検討することは、共変量の調整の実施も可能となる。これにより、どのような情報提示がどのような人にとって分かりやすく、リスクの大きさを捉えることができるかを明らかにすることができる。

データの解析は福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座が東京大学大学院工学系研究科と連携しながら実施する。なお、個人情報、オンライン調査会社より、個人情報が削除され（匿名化）、通し番号がつけられたデータが提供される。福島県立医科大学、東京大学生産技術研究所、東京大学大学院工学系研究科では個人情報を所有しない。得られた解析結果をもとに、福島県立医科大学、東京大学生産技術研究所、東京大学大学院工学系研究科にて結果を考察し、議論する。

表1 リスク比較情報の提示

比較対象	A	B	C
1 比較なし	✓	✓	✓
2 基準値 (1 mSv/年)	✓		
3 100 mSv	✓		
4 1960年代の飲食物中 Cs 被ばく量	✓		
5 他の都府県 Cs 被ばく量	✓		
6 自然放射線量	✓		
7 全発がん死亡率との比較		✓	
8 飛行機による放射線量	✓		
9 飲食物中発がん性化学物質 (無機ヒ素)	✓	✓	
10 喫煙	✓	✓	✓

【研究組織、研究機関名】

研究責任者

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

主任研究者

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 准教授 村上道夫

研究分担者

東京大学生産技術研究所 教授 沖大幹

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 助教 中谷 隼

【人体から採取された試料等の利用について】

該当しない。

【他の機関等への試料等の提供について】

該当しない。

【研究者が保有する個人情報について】

アンケートの対象者（回答者）に関する個人情報は、すべてオンライン調査会社が管理している。福島県立医科大学、東京大学生産技術研究所、東京大学大学院工学系研究科では、個人情報を削除し（匿名化し）、通し番号がつけられたデータのみ用いるため、個人情報を所有しない。

【本研究に関する問合せ先】

○研究内容に関する問合せの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座 担当 村上道夫

電話:024-547-1320 FAX: 024-547-1244

E-mail:michio@fmu.ac.jp

○個人情報に関する窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 総務課 大学管理係

電話:024-547-1007 FAX :024-547-1995

○その他ご意見の窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1

公立大学法人福島県立医科大学 研究推進課 研究支援担当

電話:024-547-1825 FAX: 024-547-1991

E-mail:rs@fmu.ac.jp

